

# スマイル通信

第9号 平成20年4月18日発行

発行元:特定非営利活動法人スマイルネットワークさかい

理事長:田崎 健治

住所:〒919-0541 福井県坂井市坂井町東 24-22

Tel:0776-72-2282 Email:koryuctr@mx3.fctv.ne.jp

## ～確かな2歩目に向けて～

桜の開花を迎える4月、私たちの交流センターも3年目に突入しました。よちよち歩きながらも、その地歩を固めてまいりました。これも、スタッフの地道な日々の積み重ね・たゆまない努力のお蔭もありますが、これらを支え続けて頂いた、坂井市ご当局様はじめ、ご家族の皆様その他関係して頂いた多くの皆様の大きなご支援の賜と深く感謝申し上げます。

少しずつ積み重ねてきました実績の上に立って、本年は新しい取り組みにもチャレンジしてゆきたいと思っております。少し離れてはいますが（とはいっても同じ大関の中ですが）畑地を確保し、子供たちに、自然と大地に触れ合って貰いながら、恵みを頂く、収穫物を得るという農作業を体験させてゆきたいと思っております。この体験を通して子供たちの心の中に変化、進化がみられれば良いかなと考えております。旧年度中共同募金会の補助金を受けて、保護者の皆様のご協力を得ながら畑地の整地も行い、農機具の一部も取り揃えさせて頂きました。有難うございました。

梨の木の管理に続く、「農・大地・自然」シリーズとして、この農作業も、ただ自然に触れ合うというだけでなく、収入も上げてゆくという実験として是非小さな成功を勝ち取りたいものだと思っております。それを足がかりに次のステップをふんでゆきたいとも考えております。これらの活動が新しい障害者の共同作業形態に育ってゆけたらと夢も大きく持っております。

これからも皆様と一緒に考え、共に行動しながら、子供たちの喜びの顔をもっともっと大きなものにしてゆきたいと思っておりますので、今後ともよろしくご支援・ご協力賜りますようお願いいたします。



理事長 田崎 健治

## 料理教室に参加しました

2月10日(日)大関友遊館で坂井市心身障害児者福祉連合会主催の料理教室が開催されて43名の人たちが参加されました。当方から倅生君、裕貴君、康平君の3組の母子が他町の人たちと交流を深め楽しいひとときを過ごしました。次回開催の際には、もっと参加して頂ければと思います。(黒坂)



## スマイル農園の第一歩!

今般、共同募金会の助成を頂きステップアップ事業(2年間)の1年目として3月30日(日)の午前中に保護者の方々と共に畑地として整地作業をしました。



5月初めに子ども達とさつま芋の苗を植え、10月頃収穫を楽しみ2年目の事業としてビニールハウス(6m×20m)の設置をする計画をしております。今後とも皆様方のご協力頂きますようお願いいたします。(黒坂)

## つながる思い、つながる手と手

センターの子ども達と遊んでくれる“隣のお兄さん”のような内田さん。  
その素敵な出会いをご縁に原稿を寄せて頂きました。



ぼると療育室  
内田 彰夫

昨年 12 月ごろから、時々「スマイルネットワークさかい」に遊びに寄せてもらっています。いつも子どもたちの楽しく遊ぶ姿と、上出さんをはじめとする職員さんたちの笑顔に癒されています。お子さん達が帰った後に、黒坂さんからいろいろな話（福祉の話題だけでなく大人としての生き方・考え方まで）を聞かせていただくのも楽しみで、私自身の療育事業にたくさんのヒントや協力をいただいています。今は週に 1 回ぐらい、いろいろな曜日にお邪魔していますが、まだお目にかかったことのない保護者の方も多と思いますので、この場を借りて自己紹介をさせていただきます。

出身は福井です。高校卒業後は県外で過ごし、4 年前から再び福井で生活しています。10 年間、主に医療機関の心理職として自閉症をはじめとする発達障害の療育に携わってきましたが、昨年春からフリーとなり、今年 2 月に春江で「ぼると療育室」を開きました。私一人でやっている一部屋だけの小さな療育室です。これまで医療機関等で療育に携わってくる中で、いつもどこかに「自分のやっていることはお子さんやご家族の生活に本当に役立っているのだろうか」という想いがひっかかっていました。

そんな想いから始めたのが「ぼると療育室」です。療育の場所だけで完結するのではなく、お子さんが生活の中でいろいろなことを楽しみ、学び、そして毎日を生き生きと過ごしていくための「生活につながる療育」を提供していきたいと考えています。今は、自閉症との診断をうけた就学前児および小学生とその保護者を対象に、個別療育と家庭訪問を行っています。お子さんによってそれぞれ特性もニーズも異なり毎日が試行錯誤ですが、その試行錯誤の中からお子さんの新しい一面が見えてきて、それを保護者の方と共有できた瞬間が何よりも励みになっています。

あともうひとつ大事なテーマとして考えているのが、「人生にわたる一貫した支援システムづくり」です。保育園から小学校、小学校から中学校と、ステージが変わるたびに支援方針が意味なくガラリと変わってしまうのでは、せっかく積み重ねてきたものが無駄になってしまう場合があります。また人や場所によって対応法が正反対では、自閉症のお子さん達は混乱してしまいます。人生のある時期にある場所だけでよい支援を受けるよりも、人生を通じて安定かつ一貫した支援を受けられる社会の方が、自閉症の人たちにとっては有益だと考えています。そうした支援システム作りの一翼を担いたいというのも「ぼると療育室」の目標です。スマイルネットワークさかいは、私がゆっくりでも着実に目標に近づくためには大切な存在です。子どもたちを支援する機関同士、互いに刺激しあい高めあえる存在でもありますし、ぼると療育室にくる子どもたちが数年後に通うかもしれない大切な「地域資源」でもありますからね。ここが「自閉症のお子さん達も安心して過ごせる場所」であり続け、さらにレベルアップし続けていくために、私のもつノウハウを職員の方たちと共有することで少しでもお役に立てればと考えています。こんな連携がきっと「一貫した支援システム作り」にもつながっていくはずですから。これからもスマイルネットワークさかいは遊びに寄せていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

### スタッフ新年度抱負

★黒坂：今年度は新しい目標達成のため、原点に戻って明るく楽しく元気をモットーに頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

★上出：子ども達の成長に感動をもらいつつ、私自身成長できるよう毎日元気に頑張ります。

★小林：今年から新しいスタートです。何もかもが初めてでてんでこまいですが、毎日子どもたちに癒され、楽しみながら精一杯やっていきたいと思います。頑張るぞー！！

★尾中：センターに来て1年経ちました。初めはどう関わっていいかわからず、こういう遊びは嫌いかな？と少し引き気味なこともありましたが。今は大分親しくなれてうれしいです。今年はみんなでできる遊びを増やしていけたらと思います。この歳ですが私自身ダンスに興味があり、子どもたちとやれたらと思うのですが…どなたか教えてくれる人いませんか？

★中野：パート職員になってようやくひと月。今はまだ子どもたちにケガのないよう気をつけるだけで精一杯なので、余裕をもって過ごせるようになることがとりたい目標です。

そしていつか、一緒に絵本を読みたい、というのがひそかな野望です。

